



Release

フランクフルト・アム・マイン

2020年10月28日

ドイツ銀行、2020年第3四半期に3億900万ユーロの純利益を計上、改革が着実に進展

2020年において最高の四半期利益

- 2020年第3四半期の純利益は3億900万ユーロ、税引前利益は4億8,200万ユーロ
- 2020年年初からの9カ月間の純利益は4億3,500万ユーロ、税引前利益は8億4,600万ユーロ

2020年第3四半期のグループ全体の純収益は、前年同四半期から13%増加し、59億ユーロ

- コア・バンクの純収益は前年同四半期から9%増加し、60億ユーロ
- インベストメント・バンクの純収益は、前年同四半期から43%増加し、24億ユーロ
- プライベート・バンクの純収益は、取引高の増加が低金利環境の逆風を相殺し、前年同四半期と同水準
- コーポレート・バンクの純収益は、金利改定により低金利環境の逆風が一部相殺され、前年同四半期から5%、通貨換算の影響を調整したベースでは2%減少
- アセット・マネジメントの純収益は、110億ユーロの純資金流入により、前年同四半期から4%増加

コスト削減は11四半期連続して前進

- 2020年第3四半期の利息以外の費用は、前年同四半期から10%減少し、52億ユーロ
- 改革費用を除く調整済コスト¹は、プライム・ファイナンスに関して返還される可能性のある費用を除いたベースで前年同四半期から10%減少し、47億ユーロ
- 2020年通年の目標である195億ユーロの達成に向けて順調に前進

コア・バンクの当第3四半期における税引前利益は9億900万ユーロ

- 調整後税引前利益¹は、前年同四半期から87%増加し、12億ユーロ
- 年初からの9カ月間における税引前利益は26億ユーロ、調整後税引前利益¹は前年同期から40%増加し、32億ユーロ

キャピタル・リリース・ユニット：当第3四半期において資産削減がさらに進展

- リスク・ウェイトド・アセットは30億ユーロ削減され、390億ユーロ

資本、リスクおよびバランスシートの厳格な管理を継続

- 普通株式等 Tier 1 資本比率は13.3%で安定的、規制要件を285ベースポイント上回る
- 流動性準備金は2,530億ユーロ、流動性カバレッジ比率 (LCR) 要件を760億ユーロ上回る
- 信用損失引当金は2億7,300万ユーロ、当第3四半期における貸出金に対する割合は25ベースポイント、2020年年初からの9カ月間については47ベースポイント (年率)
- 通年の信用損失引当金を35から45ベースポイントとする指針を再確認

¹ 本項目およびその他のGAAP以外の財務的測定尺度の詳細については、14頁以下の「GAAP以外の財務的測定尺度の使用について」をご参照ください。

CEOのクリスティアン・ゼーヴィングは、次のように述べています。「改革の開始から5度目の四半期となるこの第3四半期において、当行は、継続的なコスト管理のみならず、市場シェアを拡大できる力も実証しました。より焦点を絞った当行のビジネスモデルは実を結びつつあり、増収の多くの部分は持続可能なものであると言えます。健全なバランスシートおよび高度なリスク管理により、当行は、困難な時期にあっても顧客をサポートし、新たなビジネス機会を利用することができます。」

ドイツ銀行（銘柄コード XETRA:DBKGn. DB/NYSE:DB）は、2020年において3四半期連続で黒字となり、改革計画に基づく財務目標および戦略的目標の達成に向けて進展を続けています。増収および継続中のコスト削減によるコア・バンクの良好な業績が、様々な阻害要因を上回りました。この阻害要因には、新型コロナウイルス感染症による信用損失、進行中の事業再編に関するコストおよびキャピタル・リリース・ユニットで想定される損失が含まれます。当行の資本水準および流動性水準は依然として健全であり、規制要件を大きく上回っています。

コア・バンクに牽引され増益

2020年第3四半期において当行は、8億3,200万ユーロの純損失を計上した前年同四半期に対し、3億900万ユーロの**純利益**を計上しました。**税引前損益**については、2019年第3四半期の6億8,700万ユーロの税引前損失に対し、4億8,200万ユーロの税引前利益を計上しました。純収益は、前年同四半期から13%増加し、利息以外の費用は前年同四半期から10%減少しました。特定収益項目、改革費用ならびに再編および退職費用を除いた**調整後税引前損益¹**は、前年同四半期の8,400万ユーロの損失に対し、8億2,600万ユーロの利益となりました。

これらの業績は、**コア・バンク**における増益およびキャピタル・リリース・ユニットにおける損失の減少によるものです。コア・バンクの税引前利益は、前年同四半期の3倍近い9億900万ユーロとなり、調整後税引前利益¹は87%増加して12億ユーロとなりました。コア・バンクの純収益は、前年同四半期から9%増加し、利息以外の費用は4%減少しました。

2020年第3四半期の**キャピタル・リリース・ユニット**の税引前損失は、主に利息以外の費用が減少したことにより改善し、前年同四半期の10億ユーロに対し、4億2,700万ユーロとなりました。

2020年第3四半期中、キャピタル・リリース・ユニットは、レバレッジ・エクスポージャーの削減を更に進め、同年第2四半期末の1,020億ユーロから900億ユーロに減少させました。レバレッジ・エクスポージャーは、2019年第3四半期末から約半分、金額にして870億ユーロ削減されました。2020年第3四半期末のリスク・ウェイトド・アセット（RWA）は、同年第2四半期末の430億ユーロから、また前年同四半期末からは170億ユーロ、率にして30%減少して、390億ユーロとなりました。当行は、キャピタル・リリース・ユニットのRWAを2020年末までに380億ユーロとする目標を再確認しました。

2020年年初からの9カ月間における当行の純損益は、前年同期が38億ユーロの純損失であったのに対し、4億3,500万ユーロの純利益となりました。2019年年初からの9カ月間においては、24億ユーロの繰延税金資産の評価調整額および10億ユーロの改革戦略に関連するのれんの減損が含まれていましたが、2020年年初からの9カ月間においては、繰延税金資産の評価調整額は2,500万ユーロ、上記のれんの減損は発生しませんでした。

税引前損益については、2019年年初からの9カ月間では13億ユーロの税引前損失を計上したのに対し、2020年年初からの9カ月間では8億4,600万ユーロの税引前利益となりました。この前年同期からの改善は、2019年に発生した上記のれんの減損が2020年には発生しなかったことや、改革費用を除く調整済コストの減少および収益の増加を受けたものですが、信用損失引当金の増加によって一部相殺されました。2020年年初からの9カ月間の調整後税引前利益¹は、前年同期の6億700万ユーロに対し、15億ユーロでした。

2020年年初からの9カ月間におけるコア・バンクの税引前利益は、前年同期における9億7,100万ユーロから増加して26億ユーロとなり、調整後税引前利益¹は40%増加して32億ユーロとなりました。

2020 年年初からの 9 カ月間におけるキャピタル・リリース・ユニットの税引前損失は、前年同期の 23 億ユーロに対し、18 億ユーロとなりました。

好調が続くインベストメント・バンクによる増収

グループ全体の純収益は、注力分野の見直しを行ったコア・バンクの増収により、前年同四半期から 13%、特定項目¹を除いたベースでは 9%増加し、59 億ユーロとなりました。当行の中核ビジネスの業績は下記のとおりです。

- **コーポレート・バンクの純収益**は、前年同四半期から 5%、通貨換算の影響を調整したベースでは 2%減少し、13 億ユーロとなりました。コーポレート・バンクは、預金の金利改定の実施（計画を上回る 680 億ユーロの預金が対象）に加え、バランスシート管理や ECB による預金金利の階層化により、低金利環境の逆風の大部分を相殺しました。コマース・バンキングの純収益は、前年同四半期から 1%増加しましたが、グローバル・トランザクション・バンキングの純収益は、前年同四半期から 8%、通貨換算の影響を調整したベースでは 4%減少しました。
- **インベストメント・バンクの純収益**は、前年同四半期から 43%増加し、24 億ユーロとなりました。これは債券および為替（FIC）の 47%の増収によるもので、金利の純収益も前年同四半期から 2 倍超となりました。オリジネーションとアドバイザーの純収益は、15%増加しました。堅調な収益は、良好な市場環境と相まって、主要分野における市場シェア拡大につながりました。
- **プライベート・バンクの純収益**は、前年同四半期とほぼ同水準の 20 億ユーロとなりました。投資商品からの 30 億ユーロの純資金流入および新規顧客への 50 億ユーロの貸出しを含む取引高の増加が、新型コロナウイルス感染症および低金利環境の逆風によるマイナスの影響を相殺しました。その結果、2020 年年初からの 9 カ月間においては、顧客への純新規貸出金は前年同期から増加して 90 億ユーロ、投資商品における純資金流入も増加して 120 億ユーロとなりました。プライベート・バンク（ドイツ）の純収益は 1%増加しましたが、インターナショナル・プライベート・バンクの純収益は 2%（特定項目を除くと 1%）の減少となりました。
- **アセット・マネジメントの純収益**は、前年同四半期から 4%増加し、5 億 6,300 万ユーロとなりました。これは主に、保証の公正価値の有利な変動や資金調達コストの減少によるものです。純資金流入は、110 億ユーロでした。資金流入は、2020 年年初からの 9 カ月間の累計で 170 億ユーロとなりましたが、このうち 3 分の 1 超は、環境・社会・ガバナンス（ESG）資産における資金流入でした。2020 年第 3 四半期において、運用資産は 140 億ユーロ増加し、7,590 億ユーロとなりました。

2020 年年初からの 9 カ月間において、グループ全体の純収益は、前年同期から 4%増加して 186 億ユーロとなり、コア・バンクの純収益は、前年同期から 8%増加して 187 億ユーロとなりました。

進展が続くコスト削減

2020 年第 3 四半期の利息以外の費用は、前年同四半期から 10%減少し、52 億ユーロとなりました。改革費用を除く調整済コスト¹は、8,900 万ユーロのプライム・ファイナンスに関して返還される可能性のある費用を調整したベースでは、前年同四半期から 10%減少して、47 億ユーロとなりました。これは、第 3 四半期にはコストのすべてのカテゴリーにおいて前年同四半期から減少がみられたことを反映したものです。これで当行の四半期ベースの改革費用および銀行税を除く調整済コストは、11 四半期連続で、前年同四半期から減少したことになります。

2020 年年初からの 9 カ月間において、利息以外の費用は、前年同期から 13%減少し、162 億ユーロとなりました。改革費用およびプライム・ファイナンスに関して返還される可能性のある費用を除く調整済コストは、149 億ユーロでした。当行は、上記により測定される調整済コストについて、2020 年の目標である 195 億ユーロを達成するというコミットメントを再確認しました。

信用損失引当金は、指針に沿って 2020 年第 2 四半期から減少

2020 年第 3 四半期の**信用損失引当金**は 2 億 7,300 万ユーロで、貸出金に対する割合は 25 ベーシスポイント（年率）となり、経営陣の従前からの指針に合致するものとなりました。信用損失引当金は、前年同四半期から 56%増加しましたが、2020 年第 2 四半期における 7 億 6,100 万ユーロからは大きく減少しました。第 2 四半期からの減少は、マクロ経済の見通しの改善により、正常債権（ステージ 1 および 2）に対する引当金の戻入れが行われたことを反映したのですが、経済見通しには依然として不透明感があることから経営陣が上乗せ幅を大きくしたことにより、一部相殺されました。債務不履行債権または不良債権（ステージ 3）に対する引当金は、第 2 四半期から 20%減少しました。

2020 年年初からの 9 カ月間における信用損失引当金は 15 億ユーロで、貸出金に対する割合は 47 ベーシスポイント（年率）となりました。当行は、貸出金に対する信用損失引当金の割合を 35 から 45 ベーシスポイントとする 2020 年通年の指標を再確認しました。2020 年第 3 四半期に計上された信用損失引当金を含め、2020 年第 3 四半期末現在の信用損失引当金残高は 48 億ユーロで、貸出金に対して 111 ベーシスポイントとなりました。

資本およびバランスシートの健全性を維持

当行の 2020 年第 3 四半期末における**普通株式等 Tier 1 (CET1) 資本比率**は、同年第 2 四半期末から 2 ベーシスポイント上昇し、13.3%となりました。リスク・ウェイトド・アセット（RWA）は、60 億ユーロ、率にして 2%減少し、3,250 億ユーロでした。この減少は、キャピタル・リリース・ユニットにおける RWA 削減の進展や、オペレーショナル・リスク RWA の減少が、コア・バンクにおけるオペレーショナル・リスク以外の RWA の増加を上回ったことによるものです。

2020 年第 3 四半期末の**レバレッジ比率**は、2020 年第 2 四半期末の 4.2%から上昇し、4.4%（完全適用ベース）となりました。前四半期からの上昇は、主に、資本要件規制（CRR）に対する「応急的措置」に基づき、各国中央銀行における一定の預金残高を規制上のレバレッジから一時的に除外可能とされたことを受けたものです。このプラスの影響を除くと、レバレッジ比率は 2020 年第 2 四半期とほぼ同水準の 4.1%となります。段階的導入ベースによるレバレッジ比率は、2020 年第 3 四半期において 4.3%から 4.5%に上昇しました。

流動性準備金は、2020 年第 3 四半期において 200 億ユーロ増加し、2,530 億ユーロとなりました。これは主に、各国中央銀行に預けられている現金の増加によるものです。2020 年第 3 四半期末の流動性カバレッジ比率は 151%となり、規制要件に対する超過額は増大して 760 億ユーロとなりました。

サステナブル・ファイナンスにおいて大きな成果

2020 年第 3 四半期において当行は、その戦略的目標に沿って、サステナブル・ファイナンスにおいても大きく前進しました。当行は 29 件の発行において主幹事を務め、顧客の 270 億ユーロを超えるサステナブル・ファイナンスによる資金調達を支援し、そのうち 40 億ユーロを直接引き受けました。2020 年第 3 四半期、当行はグリーンボンドの引受けにおいて、引受手数料で第 2 位、引受総額では 2019 年第 4 四半期の第 14 位から順位を上げ第 3 位となりました（出所：ディールロジック）。2020 年年初からの 9 カ月間では、当行は 59 件の発行において主幹事を務め、顧客の 460 億ユーロ（前年同期は 130 億ユーロ）を超えるサステナブル・ファイナンスによる資金調達を支援しました。

当行の改革計画を引き続き実行

2020 年第 3 四半期においても、改革は進展を続けました。当行は、プライベート・バンク（ドイツ）において、顧客の行動パターンの変化に対応して、ドイツ銀行ブランドの約 500 の支店を約 400 にまでさらに削減する計画、ならびにチュエリッヒ・グループ（ドイツ）およびマスターカードとのパートナーシップを延長する旨を発表しました。また当行は、コストおよび収益におけるシナジーを發揮させることを目的として、ウェルス・マネジメントと旧プライベート・アンド・コマーシャル・ビジネス

(インターナショナル)を統合して新設したインターナショナル・プライベート・バンクにおいて、経営体制を完成させました。米州においては、ニューヨークにある当行拠点の相当部分を早期に閉めて、不動産ビジネスの合理化をさらに前進させたことを発表しています。

グループ業績概要

特記表示がない限り 単位:百万ユーロ	2020年	2019年	変動額	増減 (%)	2020年	2019年	変動額	増減 (%)
	9月30日に 終了の 3カ月間	9月30日に 終了の 3カ月間			9月30日に 終了の 9カ月間	9月30日に 終了の 9カ月間		
純収益:								
内:								
コーポレート・バンク(CB)	1,254	1,324	(71)	(5)	3,915	3,958	(43)	(1)
インベストメント・バンク(IB)	2,365	1,658	707	43	7,396	5,494	1,902	35
プライベート・バンク(PB)	2,033	2,041	(9)	(0)	6,144	6,203	(59)	(1)
アセット・マネジメント(AM)	563	543	20	4	1,631	1,662	(31)	(2)
キャピタル・リリース・ユニット(CRU)	(36)	(220)	184	(84)	(159)	396	(556)	N/M
コーポレートおよびその他(C&O)	(240)	(84)	(156)	187	(350)	103	(453)	N/M
純収益合計	5,938	5,262	676	13	18,575	17,816	759	4
信用損失引当金繰入額	273	175	98	56	1,540	477	1,064	N/M
利息以外の費用:								
報酬費用	2,663	2,773	(110)	(4)	7,997	8,451	(454)	(5)
一般管理費	2,336	2,776	(440)	(16)	7,810	8,936	(1,126)	(13)
のれんおよびその他無形資産の減損	0	2	(2)	N/M	0	1,037	(1,037)	(100)
再構築費用	185	224	(39)	(18)	382	257	125	49
利息以外の費用合計	5,183	5,774	(591)	(10)	16,189	18,681	(2,492)	(13)
税引前利益(損失)	482	(687)	1,169	N/M	846	(1,341)	2,188	N/M
法人所得税費用	173	145	29	20	411	2,440	(2,029)	(83)
純利益(損失)	309	(832)	1,141	N/M	435	(3,781)	4,216	N/M
非支配株主に帰属する純利益	31	27	4	14	87	90	(3)	(4)
ドイツ銀行株主およびその他の資本 構成要素に帰属する純利益(損失)	278	(859)	1,137	N/M	348	(3,871)	4,220	N/M
その他の資本構成要素に帰属する 純利益	96	83	13	15	286	245	41	17
ドイツ銀行株主に帰属する純利益 (損失)	182	(942)	1,124	N/M	62	(4,116)	4,179	N/M
普通株式等 Tier 1 資本比率	13.3 %	13.4 %	(0.1) ppt	N/M	13.3 %	13.4 %	(0.1) ppt	N/M
レバレッジ比率(完全商用ベース)	4.4 %	3.9 %	0.5 ppt	N/M	4.4 %	3.9 %	0.5 ppt	N/M
貸出金(貸引当金の控除前、 単位:十億ユーロ) ¹	433	431	2	0	433	431	2	0
預金(単位:十億ユーロ) ¹	575	584	(10)	(2)	575	584	(10)	(2)
従業員数(常勤相当) ¹	86,984	89,958	(2,975)	(3)	86,984	89,958	(2,975)	(3)

N/M:意味のある比較不能

前年のセグメント別財務情報は、現在のセグメント区分を反映して修正再表示されている。

¹ 四半期末時点

セグメント別業績

コーポレート・バンク (CB)

2020年第3四半期の純収益は、前年同四半期から5%、通貨換算の影響を調整したベースでは2%減少し、13億ユーロとなりました。これは、低金利環境の逆風や顧客取引の減少による影響が、預金の金利改定、ポートフォリオの見直しに向けた施策を含む一時的項目、バランスシート管理および ECB による預金金利の階層化による影響を上回ったためです。

グローバル・トランザクション・バンキングの純収益は、前年同四半期から8%、通貨換算の影響を調整したベースでは4%減少し、8億9,300万ユーロとなりました。キャッシュ・マネジメントの純収益は減少しましたが、これは、米国およびアジア太平洋地域における低金利環境の逆風の影響と2020年第3四半期における顧客取引の一部減少の影響が、金利改定の取組み、バランスシート管理および ECB による預金金利の階層化による影響を上回ったためです。貿易金融および貸出しの純収益は、主に2020年第3四半期における信用状況の低下と通貨換算のマイナスの影響により、前年同四半期から減少し

ました。法人信託・取次ぎサービスおよび証券サービスの純収益は、主要市場における低金利環境の逆風の影響を反映して、減少しました。

コマーシャル・バンキングの純収益は、預金と手数料収入の増加が貸出関連の減収を相殺したため、1%増加し、3億6,100万ユーロとなりました。

2020年第3四半期の**利息以外の費用**は、前年同四半期から1%減少し、10億ユーロとなりました。これには、主にドイツにおけるコーポレート・バンキングおよび商業銀行事業の統合の完了に関連する3,900万ユーロの再編および退職費用が含まれています。**改革費用を除く調整済コスト**は、非報酬関連費用の削減や通貨換算のプラスの影響により、前年同四半期から7%減少しました。

信用損失引当金は、2020年第3四半期において、新たな減損事象が少なかったため、マクロ経済の見通しの改善を反映して、4,200万ユーロとなりました。

税引前利益は1億8,900万ユーロとなりました。改革費用ならびに再編および退職費用を除いた調整後税引前利益は、2億4,300万ユーロとなりました。

2020年年初からの9カ月間において、コーポレート・バンクの**税引前利益**は、前年同期の2億1,300万ユーロに対し、3億9,900万ユーロとなりました。2020年年初からの9カ月間の**調整後税引前利益¹**は、4億9,200万ユーロののれんの減損費用が除かれていた前年同期の7億3,900万ユーロに対し、5億300万ユーロとなりました。この調整後税引前利益の減少は、主に信用損失引当金および訴訟費用引当金繰入額の増加によるものです。

コーポレート・バンク (CB) 業績概要

特記表示がない限り 単位: 百万ユーロ	2020年 9月30日に 終了の 3カ月間	2019年 9月30日に 終了の 3カ月間	変動額	増減 (%)	2020年 9月30日に 終了の 9カ月間	2019年 9月30日に 終了の 9カ月間	変動額	増減 (%)
純収益:								
グローバル・トランザクション・ バンキング	893	967	(74)	(8)	2,827	2,879	(52)	(2)
コマーシャル・バンキング	361	358	3	1	1,088	1,078	9	1
純収益合計	1,254	1,324	(71)	(5)	3,915	3,958	(43)	(1)
信用損失引当金繰入額	42	74	(32)	(44)	293	180	113	63
利息以外の費用:								
報酬費用	269	260	8	3	799	796	3	0
一般管理費	729	770	(41)	(5)	2,394	2,258	135	6
のれんおよびその他無形資産の減損	0	2	(2)	N/M	0	492	(492)	N/M
再構築費用	25	5	19	N/M	30	18	12	65
利息以外の費用合計	1,022	1,038	(15)	(1)	3,222	3,565	(342)	(10)
非支配株主持分	0	0	0	N/M	0	0	0	N/M
税引前利益	189	213	(23)	(11)	399	213	186	87
資産合計(単位: 十億ユーロ) ¹	246	235	11	5	246	235	11	5
貸出金(貸倒引当金の控除前、 単位: 十億ユーロ) ¹	115	120	(5)	(4)	115	120	(5)	(4)
従業員数(常勤相当) ¹	7,572	7,819	(248)	(3)	7,572	7,819	(248)	(3)

N/M: 意味のある比較不能

前年のセグメント別財務情報は、現在のセグメント区分を反映して修正再表示されている。

¹ 四半期末時点

インベストメント・バンク (IB)

2020年第3四半期の純収益は、前年同四半期から43%増加し、24億ユーロとなりました。純収益の増加は、当行の的を絞った顧客戦略に基づいて進行中の顧客関係の再構築によるもので、市場環境が堅調であったことや顧客フローの増加に支えられました。

債券および為替(FIC)セールス/トレーディングの純収益は、47%増加し、18億ユーロとなりました。金利における純収益は、顧客取引の増加により、前年同四半期の2倍を超える増加となり、クレジット・トレーディングの純収益も、同じく顧客取引の増加により、大幅な増収となりました。外国為替の純収益も、ボラティリティの上昇により、大幅な増加となりました。エマージング・マーケットもまた、中東欧・中東・アフリカ(CEEMEA)および中南米(Latin America)の堅調により、低迷していた前年同四半期から増収となりました。ファイナンスの純収益は、通貨換算の影響を除くと前年同四半期とほぼ同水準となり、発行市場におけるアセット・バック証券の新規発行が増加したことに下支えされました。

オリジネーションとアドバイザーの純収益は、15%増加して5億6,700万ユーロとなりましたが、これは株式オリジネーションにおける大幅な増収によるもので、主として過去最高の手数料プールを可能とする環境での市場シェア拡大(出所:ディールロジック)と、SPAC(特別買収目的会社)において特定の強みが発揮されたことによるものでした。債券オリジネーションの純収益もまた、投資適格債券およびレバレッジド・ファイナンスの両方における市場シェア拡大(出所:ディールロジック)を反映して増加しました。アドバイザーの純収益は、業界全体の業績低迷に沿う形で、堅調だった前年同四半期から大幅に減少しました。

利息以外の費用は、再編および退職費用ならびに調整済コストの減少などを反映して、前年同四半期から14%減少し、14億ユーロとなりました。**改革費用を除く調整済コスト**は、前年同四半期から5%減少しましたが、これは主に厳格な費用管理によるものです。

信用損失引当金は5,200万ユーロとなり、貸出金に対する割合は29ベースポイントでした。これは、マクロ経済の見通しの改善の影響が、新型コロナウイルス感染症に関する追加の減損により一部相殺されたことを反映したものでした。

税引前利益は9億5,700万ユーロとなり、税引後有形株主資本利益率¹は11.6%でした。前年同四半期の税引前利益は6,400万ユーロで、税引後有形株主資本利益率¹は0.2%でした。

2020年年初からの9カ月間において、インベストメント・バンクの**税引前利益**は、2019年年初からの9カ月間の5億6,200万ユーロに対し、26億ユーロとなりました。**調整後税引前利益¹**は、2019年年初からの9カ月間の7億8,500万ユーロに対し、26億ユーロでした。この増益は、2019年年初からの9カ月間と比べ大幅に純収益が増加した上に、調整済コストが減少したことによるものですが、新型コロナウイルス感染症による信用損失引当金の増加によって一部相殺されました。

インベストメント・バンク (IB) 業績概要

特記表示がない限り 単位: 百万ユーロ	2020年 9月30日に 終了の 3カ月間	2019年 9月30日に 終了の 3カ月間	変動額	増減 (%)	2020年 9月30日に 終了の 9カ月間	2019年 9月30日に 終了の 9カ月間	変動額	増減 (%)
純収益:								
債券および為替(FIC)セールス/ トレーディング	1,802	1,227	575	47	5,706	4,344	1,362	31
株式オリジネーション	100	39	60	153	240	105	135	130
債券オリジネーション	387	322	64	20	1,225	858	367	43
アドバイザー	81	132	(51)	(39)	201	325	(125)	(38)
オリジネーションおよびアドバイザー	567	494	73	15	1,666	1,288	378	29
その他	(4)	(63)	60	(94)	24	(138)	162	N/M
純収益合計	2,365	1,658	707	43	7,396	5,494	1,902	35
信用損失引当金繰入額	52	20	32	159	658	71	587	N/M
利息以外の費用:								
報酬費用	519	495	24	5	1,478	1,479	(1)	(0)
一般管理費	833	994	(161)	(16)	2,662	3,259	(597)	(18)
のれんおよびその他無形資産の減損	0	0	0	N/M	0	0	0	N/M
再構築費用	4	84	(79)	(95)	19	104	(85)	(82)
利息以外の費用合計	1,356	1,573	(216)	(14)	4,158	4,842	(684)	(14)
非支配株主持分	(0)	1	(1)	N/M	5	19	(15)	(75)
税引前利益	957	64	892	N/M	2,575	562	2,013	N/M
資産合計(単位: 十億ユーロ) ¹	592	584	8	1	592	584	8	1
貸出金(貸倒引当金の控除前、 単位: 十億ユーロ) ¹	73	74	(1)	(1)	73	74	(1)	(1)
従業員数(常勤相当) ¹	4,106	4,489	(383)	(9)	4,106	4,489	(383)	(9)

N/M: 意味のある比較不能

前年のセグメント別財務情報は、現在のセグメント区分を反映して修正再表示されている。

¹ 四半期末時点

プライベート・バンク (PB)

2020年第3四半期の純収益は、前年同四半期とほぼ同水準で、20億ユーロとなりました。継続している預金マージン圧縮のマイナスの影響や顧客取引の減少の影響、新型コロナウイルス感染症による平均運用資産の減少は、取引高の増加により相殺されました。2020年第3四半期においてプライベート・バンクは、投資商品から30億ユーロの純資金流入を得るとともに、新規顧客への貸出しを50億ユーロに拡大しました。

プライベート・バンク (ドイツ)の純収益は、前年同四半期から1%増加し、13億ユーロとなりました。継続している預金マージン圧縮および新型コロナウイルス感染症によるマイナスの影響は、貸出金からの純収益および投資商品からの手数料収入の増加、ならびに保険収益の一時的な増加により相殺されました。プライベート・バンク (ドイツ)は、2020年第3四半期において、顧客への純新規貸出金を30億ユーロ増やし、また投資商品からの純資金流入を10億ユーロ得ました。

インターナショナル・プライベート・バンクにおいては、純収益は、前年同四半期から2% (前年同四半期から減少したサル・オープンハイムのワークアウト業務に関する純収益の影響を調整すると1%)減少し、7億5,500万ユーロとなりました。プライベート・バンキング・アンド・ウェルス・マネジメントの純収益は、サル・オープンハイムのワークアウト業務からの純収益の減少および通貨換算の影響により3%減少し、5億4,200万ユーロとなりました。戦略的雇用による取引高の増加は、預金マージンの圧縮および新型コロナウイルス感染症による平均運用資産への影響をほぼ相殺しました。パーソナル・バンキングの純収益は、1%減少し、2億1,300万ユーロとなりました。これは、投資の評価調整からのプラスの影響により一部相殺されたものの、新型コロナウイルス感染症および継続している預金マージン圧縮からのマイナスの影響を受けたことによります。

インターナショナル・プライベート・バンクは、2020年第3四半期において、すべての地域において投資商品において20億ユーロの純資金流入を得るとともに、顧客への20億ユーロの純新規貸出金を含む貸出残高を増加させました。

プライベート・バンクの**運用資産**は、2020年第3四半期において50億ユーロ増加しました。これは、50億ユーロの純資金流入および相場の上昇によるものですが、通貨換算からのマイナスの影響で一部相殺されました。投資商品からの純資金流入は30億ユーロでした。

利息以外の費用は、前年同四半期からほぼ同水準で、19億ユーロとなりました。2020年第3四半期の利息以外の費用には、再編および退職費用1億8,300万ユーロが含まれており、前年同四半期の900万ユーロから、主に本社および支店ネットワークの再編を理由に増加しました。

改革費用を除く調整済コストは、前年同四半期から10%減少し、17億ユーロとなりました。この減少は主に、前年同四半期には当行グループの新体制への移行後における配分変更による実質的増加が含まれていたところ、2020年第3四半期には、内部サービスコストの配分の削減を含む非報酬関連費用の減少が反映されたものです。報酬関連費用も人員削減によって減少しました。プライベート・バンク（ドイツ）は、2020年第3四半期において約1億1,500万ユーロ、2020年年初からの9カ月間においては約2億6,000万ユーロの統合によるコストシナジーを達成しました。

信用損失引当金は、新型コロナウイルス感染症からの悪影響を反映して、1億7,400万ユーロ、貸出金に対する割合としては30ベーシスポイントとなり、モデルの再調整による恩恵からの好影響があった前年同四半期の5,500万ユーロから増加しました。

税引前損益は、2019年第3四半期の1億2,100万ユーロの税引前利益に対し、400万ユーロの**税引前損失**となりました。**調整後税引前利益¹**は、1億8,000万ユーロで、前年同四半期の1億1,700万ユーロから55%増加しました。

2020年年初からの9カ月間において、プライベート・バンクの**税引前損失**は、前年同期の1,800万ユーロに対し、1億3,300万ユーロとなりました。**調整後税引前利益¹**は、前年同期の4億4,200万ユーロに対し、2億7,700万ユーロとなりました。この減少は、2020年における信用損失引当金と訴訟費用の増加によるものですが、調整済コストの削減により一部相殺されました。

プライベート・バンク (PB) 業績概要

特記表示がない限り 単位:百万ユーロ	2020年	2019年	変動額	増減 (%)	2020年	2019年	変動額	増減 (%)
	9月30日に 終了の 3カ月間	9月30日に 終了の 3カ月間			9月30日に 終了の 9カ月間	9月30日に 終了の 9カ月間		
純収益:								
プライベート・バンク(ドイツ)	1,278	1,269	9	1	3,801	3,845	(44)	(1)
インターナショナル・プライベート・バンク(IPB)	755	772	(17)	(2)	2,343	2,358	(15)	(1)
IPB パーソナル・バンキング ¹	213	215	(2)	(1)	622	655	(33)	(5)
IPB プライベート・バンキング・アンド・ ウェルス・マネジメント ²	542	557	(15)	(3)	1,721	1,703	18	1
純収益合計	2,033	2,041	(9)	(0)	6,144	6,203	(59)	(1)
内:								
純利息収益	1,184	1,201	(17)	(1)	3,488	3,657	(169)	(5)
手数料およびフィー収益	739	696	44	6	2,262	2,133	129	6
その他の収益	110	145	(35)	(24)	394	413	(19)	(5)
信用損失引当金繰入額	174	55	119	N/M	538	224	314	140
利息以外の費用:								
報酬費用	734	752	(19)	(2)	2,210	2,252	(42)	(2)
一般管理費	977	1,113	(136)	(12)	3,211	3,239	(28)	(1)
のれんおよびその他無形資産の減損	0	0	(0)	N/M	0	545	(545)	N/M
再構築費用	151	(1)	152	N/M	318	(39)	357	N/M
利息以外の費用合計	1,862	1,864	(2)	(0)	5,739	5,997	(258)	(4)
非支配株主持分	0	0	(0)	(46)	0	0	0	N/M
税引前利益(損失)	(4)	121	(125)	N/M	(133)	(18)	(115)	N/M
資産合計(単位:十億ユーロ) ³	283	277	6	2	283	277	6	2
貸出金(貸倒引当金の控除前、 単位:十億ユーロ) ³	234	223	10	5	234	223	10	5
運用資産(単位:十億ユーロ) ³	477	481	(5)	(1)	477	481	(5)	(1)
純資金流入(単位:十億ユーロ)	5	(1)	6	N/M	11	10	2	15
従業員数(常勤相当) ³	30,872	32,283	(1,411)	(4)	30,872	32,283	(1,411)	(4)

N/M:意味のある比較不能

前年のセグメント別財務情報は、現在のセグメント区分を反映して修正再表示されている。

¹ イタリア、スペインおよびインドの中小企業が含まれる。

² イタリア、スペインおよびインドの中堅企業が含まれる。

³ 四半期末時点

アセット・マネジメント (AM)

2020年第3四半期の純収益は、前年同四半期から4%増加し、5億6,300万ユーロとなりました。これは主に、保証の公正価値のプラスの変動や資金調達コストの配分の削減を反映したものです。2020年第2四半期からは、純収益はマネジメント・フィーの増加により3%増加しました。

2020年第3四半期の純資金流入は110億ユーロとなりました。これは、多様化したDWSの事業モデルの強みを示すものです。この純資金流入は、主にパッシブによるものですが、現物、債券およびオルタナティブにも支えられました。ESGに特化した資金は、純資金流入の2020年年初からの9カ月間の合計170億ユーロのうち3分の1超を占めています。

運用資産は、2020年第2四半期から140億ユーロ、率にして2%増加し、7,590億ユーロとなりました。これは主に、市場の有利な動向と堅調な純資金流入によるものですが、為替レートの変動のマイナスの影響により一部相殺されました。

利息以外の費用は、前年同四半期から12%減少し、3億5,400万ユーロとなりました。**改革費用を除いた調整済コスト**は、進行中のコスト削減の取組みを反映して、11%の減少となりました。

アセット・マネジメントの**費用収益比率**は、純収益の増加とコストの削減を反映して、前年同四半期から12パーセントポイント改善し、63%となりました。

2020年第3四半期の**税引前利益**は、前年同四半期から56%増加し、1億6,300万ユーロとなりました。**2020年年初からの9カ月間**におけるアセット・マネジメントの**税引前利益**は、前年同期の2億9,100万ユーロに対し、3億8,700万ユーロでした。この増加は、コストの大幅な削減によるものです。

アセット・マネジメント (AM) 業績概要

特記表示がない限り 単位:百万ユーロ	2020年 9月30日に 終了の 3カ月間	2019年 9月30日に 終了の 3カ月間	変動額	増減 (%)	2020年 9月30日に 終了の 9カ月間	2019年 9月30日に 終了の 9カ月間	変動額	増減 (%)
純収益:								
マネジメント・フィー	524	540	(16)	(3)	1,585	1,588	(3)	(0)
運用報酬および取引フィー	20	21	(1)	(6)	57	98	(41)	(42)
その他	18	(18)	37	N/M	(12)	(24)	13	(52)
純収益合計	563	543	20	4	1,631	1,662	(31)	(2)
信用損失/当金繰入額	2	0	2	N/M	2	0	1	N/M
利息以外の費用:								
報酬費用	182	194	(12)	(6)	558	622	(64)	(10)
一般管理費	173	209	(36)	(17)	559	621	(62)	(10)
のれんおよびその他無形資産の減損	0	0	0	N/M	0	0	0	N/M
再構築費用	(1)	1	(2)	N/M	10	30	(20)	(67)
利息以外の費用合計	354	404	(50)	(12)	1,128	1,273	(146)	(11)
非支配株主持分	44	34	10	30	114	98	17	17
税引前利益	163	105	58	56	387	291	96	33
資産合計(単位:十億ユーロ) ¹	10	10	(0)	(2)	10	10	(0)	(2)
運用資産(単位:十億ユーロ) ¹	759	754	6	1	759	754	6	1
純資金流入(単位:十億ユーロ)	11	6	4	N/M	17	13	4	N/M
従業員数(常勤相当) ¹	3,882	3,994	(112)	(3)	3,882	3,994	(112)	(3)

N/M:意味のある比較不能

前年のセグメント別財務情報は、現在のセグメント区分を反映して修正再表示されている。

¹ 四半期末時点

コーポレートおよびその他 (C&O)

コーポレートおよびその他においては、2019年第3四半期は1億7,600万ユーロの税引前損失であったのに対し、2020年第3四半期は3億9,600万ユーロの税引前損失となりました。

2020年第3四半期の**純収益**は、主に前年同四半期の収益後の評価および期間差異によるマイナスの影響により、2019年第3四半期は8,400万ユーロのマイナス収益であったのに対し、2020年第3四半期は2億4,000万ユーロのマイナス収益となりました。資金調達コストおよび流動性費用は前年同四半期から減少しましたが、これは資金移動にかかる当行の新規の価格設定フレームワークおよび手法の変更の実施による影響を受けたものです。

2020年第3四半期の**利息以外の費用**は、2019年第3四半期が1億2,900万ユーロであったのに対し、2億400万ユーロとなりました。これは、ニューヨークにおける当行の不動産物件の合理化を加速させたことによる改革費用、ならびに計画より高くなったインフラ費用の差分をコーポレートおよびその他で吸収したことによるものでした。株主費用は、前年同四半期から減少しました。

2020年年初からの9カ月間において、前年同期は7,600万ユーロの税引前損失であったのに対し、5億9,700万ユーロの税引前損失を計上しました。この損失の増加は、主に評価および期間差異におけるマイナスの影響、計画より高いインフラ費用の差分をコーポレートおよびその他で吸収したこと、また資金調達費用および流動性費用が増加したことによるものでした。株主費用は、前年同期から減少しました。

コーポレートおよびその他 (C&O) 業績概要

特記表示がない限り 単位: 百万ユーロ	2020年	2019年	変動額	増減 (%)	2020年	2019年	変動額	増減 (%)
	9月30日に 終了の 3カ月間	9月30日に 終了の 3カ月間			9月30日に 終了の 9カ月間	9月30日に 終了の 9カ月間		
純収益	(240)	(84)	(156)	187	(350)	103	(453)	N/M
信用損失引当金繰入額	(5)	(1)	(4)	N/M	(0)	1	(2)	N/M
利息以外の費用:								
報酬費用	916	973	(57)	(6)	2,812	2,984	(173)	(6)
一般管理費	(715)	(884)	170	(19)	(2,447)	(2,728)	281	(10)
のれんおよびその他無形資産の減損	0	0	0	N/M	0	0	0	N/M
再構築費用	3	40	(37)	(93)	3	40	(37)	(93)
利息以外の費用合計	204	129	75	58	367	296	71	24
非支配株主持分	(44)	(36)	(8)	23	(119)	(118)	(1)	1
税引前損益(損失)	(396)	(176)	(219)	124	(597)	(76)	(521)	N/M
従業員数(常勤相当) ¹⁾	40,049	40,610	(561)	(1)	40,049	40,610	(561)	(1)

N/M: 意味のある比較不能

前年のセグメント別財務情報は、現在のセグメント区分を反映して修正再表示されている。

¹⁾ 四半期末時点

キャピタル・リリース・ユニット (CRU)

2020年第3四半期の**純収益**は、3,600万ユーロのマイナス収益となりました。純収益はリスク削減コストおよびヘッジコストならびに資金調達コストの影響を受けましたが、プライム・ファイナンスに関して返還される可能性のある費用の返還ならびに評価調整のプラスの影響により一部相殺されました。2019年第3四半期は、2億2,000万ユーロのマイナス収益でした。この前年同四半期からの改善は、前年同四半期に発生した一定のマイナスの評価調整やリスク管理による損失の影響が、2020年第3四半期には発生しなかったことを反映したものでした。

2020年第3四半期の**利息以外の費用**は、前年同四半期の7億6,600万ユーロに対して、3億8,400万ユーロとなりました。2020年第3四半期の利息以外の費用には、改革費用、訴訟費用、再編および退職費用の合計4,800万ユーロが含まれていますが、前年同四半期にはこれらの費用は合計2億900万ユーロでした。

2020年第3四半期の改革費用を除く**調整済コスト**は、前年同四半期から40%減少し、3億3,500万ユーロとなりました。これは主に、内部サービスコストの配分の減少、人員削減を反映した報酬関連費用の減少、また専門家報酬、市場データおよびその他の項目を含む非報酬関連費用の減少によるものです。

2020年第3四半期の**税引前損失**は、前年同四半期の10億ユーロに対し、4億2,700万ユーロとなりました。この税引前損失の減少は、上記の利息以外の費用の減少および前年同四半期からの純収益の改善を反映したものでした。

2020年第3四半期末の**リスク・ウェイトド・アセット**は、2020年第2四半期末から30億ユーロ減少して、390億ユーロとなりました。**レバレッジ・エクスポージャー**は、2020年第2四半期の1,020億ユーロから120億ユーロ減少して、900億ユーロとなりました。キャピタル・リリース・ユニットは、2019年第2四半期以降、リスク・ウェイトド・アセット (RWA) を250億ユーロ減少させ、レバレッジ・エクスポージャーを1,590億ユーロ削減しました。

2020年年初からの9カ月間において、キャピタル・リリース・ユニットは、2019年年初からの9カ月間の23億ユーロの税引前損失に対して、18億ユーロの**税引前損失**を計上しました。この減少は、利息以外の費用の減少が純収益の減少を一部相殺したことを反映したものでした。

キャピタル・リリース・ユニット（CRU）業績概要

特記表示がない限り 単位: 百万ユーロ	2020年	2019年	変動額	増減 (%)	2020年	2019年	変動額	増減 (%)
	9月30日に 終了の 3カ月間	9月30日に 終了の 3カ月間			9月30日に 終了の 9カ月間	9月30日に 終了の 9カ月間		
純収益	(36)	(220)	184	(84)	(159)	396	(556)	N/M
信用損失引当金繰入額	7	26	(19)	(72)	50	(0)	50	N/M
利息以外の費用:								
報酬費用	43	97	(54)	(56)	140	318	(178)	(56)
一般管理費	339	575	(237)	(41)	1,431	2,287	(855)	(37)
のれんおよびその他無形資産の減損	0	0	(0)	N/M	0	0	0	N/M
再構築費用	2	94	(92)	(98)	3	104	(101)	(97)
利息以外の費用合計	384	766	(382)	(50)	1,574	2,708	(1,134)	(42)
非支配株主持分	0	1	(1)	N/M	(0)	1	(1)	N/M
税引前利益(損失)	(427)	(1,014)	587	(58)	(1,784)	(2,313)	529	(23)
資産合計(単位: 十億ユーロ) ¹	238	359	(121)	(34)	238	359	(121)	(34)
従業員数(常勤相当) ¹	503	763	(260)	(34)	503	763	(260)	(34)

N/M: 意味のある比較不能

前年のセグメント別財務情報は、現在のセグメント区分を反映して修正再表示されている。

¹ 四半期末時点

ドイツ銀行について

ドイツ銀行は、個人顧客、中小企業、事業法人、各国政府および機関投資家に対し、リテール・バンキング、プライベート・バンキング、コーポレート・バンキング、トランザクション・バンキング、融資および資産運用の商品およびサービス、ならびに焦点を絞った投資銀行業務を提供しています。ドイツ銀行は、欧州に深く根ざしつつグローバル・ネットワークを有するドイツ有数の銀行です。

将来の事象に関する記述はリスクを伴います

本リリースには、将来の事象に関する記述が含まれています。将来の事象に関する記述とは、歴史的事実ではない記述であり、ドイツ銀行の考えや予想、およびその基礎となる前提が含まれます。これらの記述は、ドイツ銀行グループの経営陣が現在入手可能な予定、推定および計画に基づいています。従って、将来の事象に関する記述は、あくまで当該記述がなされた日現在のものであって、当グループはこれらの記述に関して、新しい情報や将来生じた事象があっても、これを更新して公表する責任は負いません。

将来の事象に関する記述は、その性質上リスクおよび不確実性を含みます。従って、いくつかの重要な要因が作用して、実際には将来の事象に関する記述に含まれるものとは大きく異なる結果となる可能性があります。これらの要因には、ドイツ、ヨーロッパ、米国および当グループが純収益の相当部分を上げ、資産の相当部分を有するその他の地域における金融市場の動向、資産価値の推移および市場のボラティリティ、借り手または取引相手による将来の債務不履行、当グループの経営戦略の実施、当グループのリスク・マネジメントの方針、手続および方法への信頼性、ならびに米国証券取引委員会（SEC）への情報開示に関連するリスク等が含まれます。このような要因については、SECに提出した当グループの2020年3月20日付年次報告書（Form 20-F）の「リスク・ファクター」の表題のもとで、およびアニュアル・レポートの「リスク及び機会」の項において詳しく記載されています。これらの文書の写しは、請求により入手可能であり、また www.db.com/ir からダウンロードすることができます。

会計の基準

上記の当行業績は、欧州連合（EU）が支持している国際財務報告基準（IFRS）に準拠して作成されています。これには、満期到来前の預金に対するポートフォリオ公正価値ヘッジ会計および期限前弁済条項付き固定金利モーゲージの2020年からの適用（以下「EUカーブアウト」）が含まれます。2020年9月30日に終了した3か月について、EUカーブアウトの適用は、当行の税引前利益に1,200万ユーロ、純利益に900万ユーロのマイナスの影響をもたらしました。2020年9月30日に終了した9か月について、EUカーブアウトの適用は、当行の税引前利益に

6,500万ユーロ、純利益に3,800万ユーロのプラスの影響をもたらしました。当行グループの規制自己資本およびその比率についても、EUカーブアウトを伴うIAS第39号を用いて報告しています。純利益への影響はCET1資本比率の計算にも影響し、2020年9月30日現在、約1ベースポイントのプラスの影響を与えています。いずれの期においても、EUカーブアウトの正味の影響は、ヘッジ対象のポジションの時価評価の変動およびヘッジ手段によって、プラスにもマイナスにもなる可能性があります。

GAAP以外の財務的測定尺度の使用について

本リリース、および当行が発行しているまたは発行する可能性があるその他の書面には、GAAP以外の財務的測定尺度が含まれています。GAAP以外の財務的測定尺度とは、当行の過去または将来の経営成績、財政状態またはキャッシュ・フローの尺度で、当行の財務諸表においてIFRSに従って計算および表示された最も直接に比較可能な尺度から、場合により、これに含められている（または除外されている）金額を除外する（または含める）調整を行うものです。当行のGAAP以外の財務的測定尺度、およびこれと最も直接に比較可能なIFRSの財務的測定尺度の例は、以下をご参照ください。

GAAP以外の財務的測定尺度	最も直接に比較可能なIFRSの財務的測定尺度
ドイツ銀行株主に帰属する純利益	純利益
特定項目を除く収益	純収益
調整済コスト、改革費用を除く調整済コスト、改革費用およびプライム・ファイナンスに関して返還される可能性のある費用を除く調整済コスト	利息以外の費用
調整後税引前利益	税引前利益
有形株主資本、平均有形株主資本、有形帳簿価額、平均有形帳簿価額	株主持分合計（帳簿価額）
平均株主資本利益率（税引後）（ドイツ銀行株主に帰属する純利益に基づく）	平均株主持分合計利益率（税引後）
平均有形株主資本利益率（税引後）	平均株主持分合計利益率（税引後）
基本的流通株式1株当たり有形純資産、基本的流通株式1株当たり資産	基本的流通株式1株当たり資産

調整後税引前利益（損失）は、IFRSに基づく税引前利益（損失）を、特定収益項目、改革費用、のれんその他の無形資産の減損ならびに再編および退職費用で調整して算出されます。

特定収益項目は、一般的に事業の通常の性質または範囲外にあり、部門別業績の正確な評価を歪曲してしまう可能性のある項目を指します。

調整済コストは、IFRSに基づく利息以外の費用から、(i)のれんその他の無形資産の減損、(ii)正味の訴訟費用、(iii)再編および退職費用を控除して計算されます。

改革費用は、調整済コストに含まれる費用で、2019年7月7日に発表された新戦略による当行改革に直接関連する費用および新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の影響により当行の業績変動が想定されることを受けた追加的または早期の決定に関する一定の費用です。この費用には、改革に関連するソフトウェアおよび不動産の減損、ソフトウェアの加速償却額、ならびに義務負担付契約の引当金や戦略の実施に関する弁護士費用およびコンサルタント費用といったその他の改革費用が含まれます。

改革に関連する影響は、2019年7月7日に発表された戦略による財務上の影響です。これらの影響には、改革費用、2019年第2四半期におけるのれんの減損、ならびに2019年第3四半期以降の再編および退職費用が含まれます。上記の税引前の項目に加え、税引後ベースの改革に関連する影響には、上記の項目に関する税効果（資産ベース）および当行グループの改革に関連する繰延税金資産の評価調整額が含まれます。

プライム・ファイナンスに関して返還される可能性のある費用

ドイツ銀行と BNP パリバは、当行のプライム・ファイナンスおよび株式電子トレーディングのサービスを継続して顧客に提供するための基本取引合意に署名しました。この合意に基づき、当行は顧客が BNP パリバに移行することができるまで、プラットフォームの運営を継続することになり、移行した業務の費用は BNP パリバから返還される可能性があります。

GAAP 以外の財務的測定尺度の詳細およびそれらを算出するための最も直接に比較可能な IFRS の財務的測定尺度に対する調整については、当行のウェブサイト www.db.com/quarterly-results で公表されている補足財務データ（英文）の 3 頁から 13 頁および 17 頁から 29 頁の記載をご参照ください。